

I. 徳島大学大学教育再生加速プログラム 事業の概要

徳島大学大学教育再生加速プログラム（AP）事業の概要

1) 事業内容

平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、「鉄は熱いうちに打て」（SIH: Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目である「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を、初年次に導入する。本科目では、学生は将来を見据えて学習意欲を向上させながら、能動的学修の実践に必要な「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」等のラーニングスキルを体得し、教員は現場実践型職能開発によりティーチングスキルを向上させる。さらに、学年進行に伴い、アクティブ・ラーニングの実質化を学士課程全般に浸透させていく。これらによって、高度専門職業人として必要な汎用的技能を備え、本学の教育理念である進取の気風を体现できる人材の育成を推進する。

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組 大学教育再生加速プログラム

大学等名：徳島大学
テーマ：テーマ I（アクティブ・ラーニング）

本事業は、「鉄は熱いうちに打て」(SIH: Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」を初年次に導入し、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い、成長することで、アクティブ・ラーニングを学士課程全般に浸透させていく取組である

学生の課題

- 初年次学習と目指す専門性との関連付けができていない
- 大学での学修に不可欠なラーニングスキルが不十分
- 高学年において能動的学修を実践できていない

学生と教員が共に成長

Strike while the Iron is Hot. 「鉄は熱いうちに打て」

教員の課題

- アクティブ・ラーニングが形式だけにとどまり、効果が出ない
- 新しい教育方法が分からない
- 自らの授業を振り返り、改善を検討する機会を作れない

SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
ラーニング/ティーチングスキルを向上

波及効果

全学部の1年次学生

学生（能動的に学ぶ）

- ① 専門領域早期体験による学修の動機づけ
- ② 文章力・プレゼン力・協働力を早期に獲得
- ③ 能動的学修力の基礎固め

専門科目への拡大・学生間の波及効果

省察/改善 → 目標・計画・学修成果 → 専門教育

高年次

ロールモデル

学修ポートフォリオの活用

高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

波及効果

全教員が順次担当

教員（新教育方法を学ぶ）

- ① 実践を通じアクティブ・ラーニングを実質化
- ② ルーブリック評価、反転授業等の修得
- ③ 教育経験を振り返る機会

他科目への拡大・教員間の波及効果

共有/普及 → 省察/改善 → 応用

手法A

新手法

手法A

ティーチング・ポートフォリオの活用

大学全体にアクティブ・ラーニングが拡大

◆本事業を実施することにより、学生のラーニングスキル、教員のティーチングスキルが向上し、学生は能動的に学修し、教員は能動的に教育改善に取り組むことで、これまでの教育改革で増加した専門科目におけるアクティブ・ラーニング型授業をより実質化することができる。

◆事業実施により、学生、教員の双方が実践を通して能動的学修のスキルを習得し、eポートフォリオの活用や全教員がSIH道場及びそのFD等に関わることで、大学全体にアクティブ・ラーニングを波及させることができる。

| | 26年度 | 28年度 (目標値) | 30年度 (目標値) |
|--------------------------|------|---------------|---------------|
| アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合 | 100% | 100% | 100% |
| アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合 | 47% | 60% | 80% |
| アクティブ・ラーニングを行う専任教員の割合 | 52% | 63% | 77% |

2) 組織体制（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

| | | |
|---------|-----------------------|-------|
| 事業推進代表者 | 学長 | 野地 澄晴 |
| 事業推進責任者 | 理事（教育担当） | 高石 喜久 |
| 事務担当者 | 主担当 学務部教育支援課教育企画室長 | 小山 順子 |
| 事務担当者 | 副担当 学務部教育支援課教育企画室専門職員 | 金治志津子 |

<徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会>

| | | |
|------|------------------------|-------|
| 委員長 | 副学長（教育担当） | 高石 喜久 |
| 副委員長 | 教養教育院 院長 | 荒木 秀夫 |
| 副委員長 | 総合教育センター 教育改革推進部門 部門長 | 赤池 雅史 |
| | 総合科学部 教授 | 豊田 哲也 |
| | 医学部 教授 | 西村 明儒 |
| | 歯学部 教授 | 馬場 麻人 |
| | 薬学部 教授 | 川添 和義 |
| | 理工学部 教授 | 高橋 浩樹 |
| | 教養教育院 准教授 | 古屋 玲 |
| | 生物資源産業学部 教授 | 辻 明彦 |
| | 総合教育センター 教育改革推進部門 教授 | 川野 卓二 |
| | 総合教育センター 教育改革推進部門 講師 | 吉田 博 |
| | 総合教育センター ICT 活用教育部門 教授 | 金西 計英 |
| | 学務部 部長 | 川野 晋資 |
| | 学務部教育支援課 課長 | 三好 信幸 |
| | 学務部教育支援課 室長 | 小山 順子 |
| | 医学部 教授 | 竹谷 豊 |
| | 医学部 教授 | 吉永 哲哉 |
| | 総合教育センター 教育改革推進部門 助教 | 久保田祐歌 |
| | 総合教育センター 教育改革推進部門 特任助教 | 新原 将義 |
| | 学術情報部 図書情報課 | 北條 充敏 |

<SIH 道場授業設計コーディネーター（平成 28 年度授業設計担当）>

| | | | |
|-------|---------------|----|-------|
| 総合科学部 | 社会総合科学科 | 教授 | 豊田 哲也 |
| 総合科学部 | 社会総合科学科 | 教授 | 依岡 隆児 |
| 医学部 | 医学科 | 教授 | 西村 明儒 |
| 医学部 | 医科栄養学科 | 教授 | 竹谷 豊 |
| 医学部 | 保健学科看護学専攻 | 教授 | 安井 敏之 |
| 医学部 | 保健学科放射線技術科学専攻 | 教授 | 森田 明典 |

| | | | |
|------------|--------------|-----|-------|
| 医学部 | 保健学科検査技術科学専攻 | 教授 | 細井 英司 |
| 歯学部 | 歯学科 | 教授 | 馬場 麻人 |
| 歯学部 | 口腔保健学科 | 教授 | 伊賀 弘起 |
| 薬学部 | | 教授 | 佐野 茂樹 |
| 理工学部 | 社会基盤デザインコース | 准教授 | 渡邊 健 |
| 理工学部 | 機械科学コース | 教授 | 高岩 昌弘 |
| 理工学部 | 応用化学システムコース | 教授 | 外輪健一郎 |
| 理工学部 | 電気電子システムコース | 講師 | 榎本 崇宏 |
| 理工学部 | 情報光システムコース | 准教授 | 泓田 正雄 |
| 理工学部 | 応用理数コース | 准教授 | 大沼 正樹 |
| 理工学部 | 応用理数コース | 教授 | 三好 徳和 |
| 生物資源産業学部 | | 教授 | 松木 均 |
| 医療教育開発センター | | 准教授 | 吾妻 雅彦 |

<SIH 道場授業設計コーディネーター（平成 29 年度授業設計担当）>

| | | | |
|------------|---------------|-----|-------|
| 総合科学部 | | 教授 | 三浦 哉 |
| 医学部 | 医学科 | 教授 | 赤池 雅史 |
| 医学部 | 医科栄養学科 | 教授 | 酒井 徹 |
| 医学部 | 保健学科看護学専攻 | 教授 | 森 健治 |
| 医学部 | 保健学科放射線技術科学専攻 | 教授 | 阪間 稔 |
| 医学部 | 保健学科検査技術科学専攻 | 教授 | 片岡 桂子 |
| 歯学部 | 歯学科 | 教授 | 山本 朗仁 |
| 歯学部 | 口腔保健学科 | 教授 | 白山 靖彦 |
| 薬学部 | | 教授 | 川添 和義 |
| 理工学部 | 社会基盤デザインコース | 教授 | 馬場 俊孝 |
| 理工学部 | 機械科学コース | 教授 | 長谷崎和洋 |
| 理工学部 | 応用化学システムコース | 教授 | 岡村 英一 |
| 理工学部 | 電気電子システムコース | 講師 | 芥川 正武 |
| 理工学部 | 情報光システムコース | 講師 | 水科 晴樹 |
| 理工学部 | 応用理数コース | 教授 | 中村 浩一 |
| 生物資源産業学部 | | 教授 | 櫻谷 英治 |
| 医療教育開発センター | | 准教授 | 吾妻 雅彦 |

<SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループ>

| | | | |
|----------|----------|-----|-------|
| 総合教育センター | 教育改革推進部門 | 教授 | 川野 卓二 |
| 総合教育センター | 教育改革推進部門 | 准教授 | 宮田 政徳 |
| 総合教育センター | 教育改革推進部門 | 講師 | 吉田 博 |

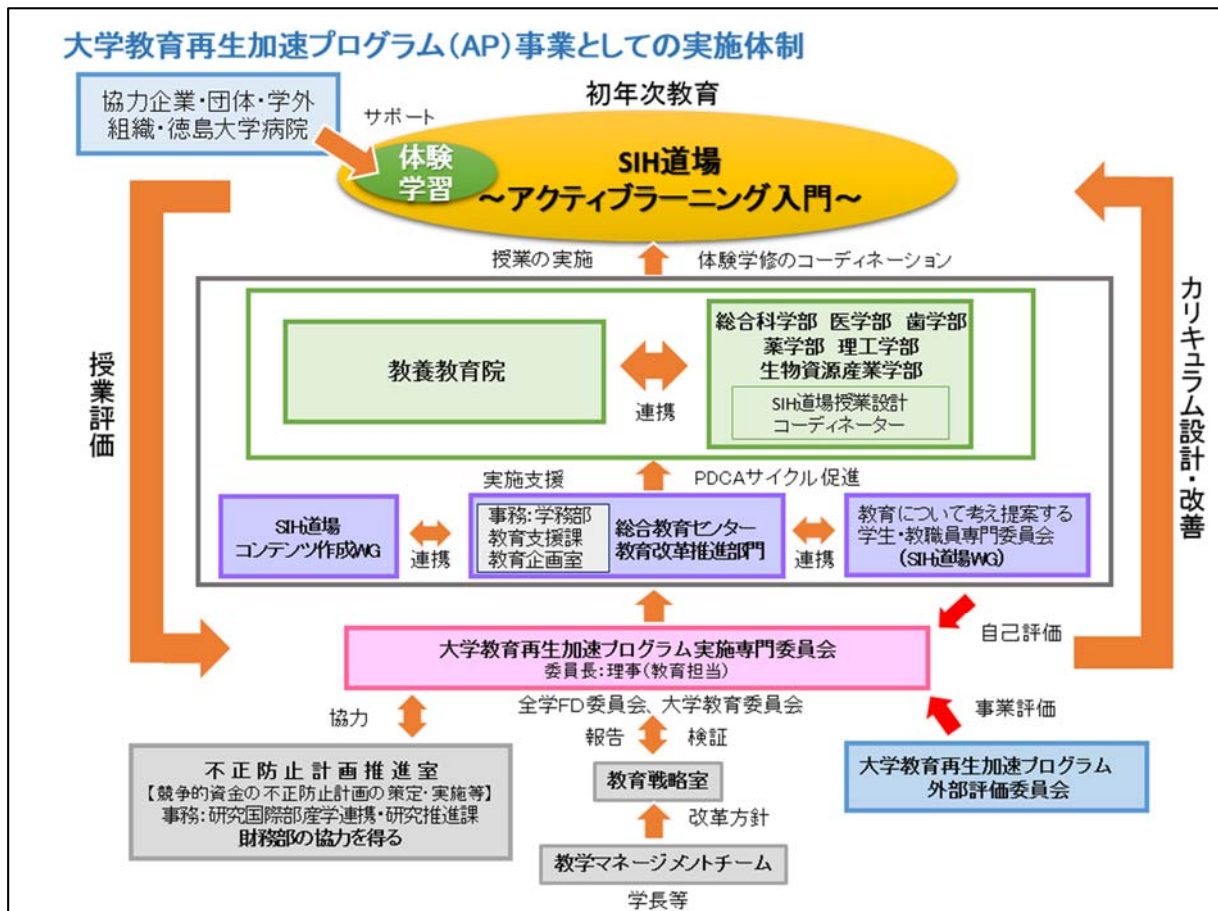
総合教育センター 教育改革推進部門 助教
 総合教育センター 教育改革推進部門 特任助教
 総合教育センター ICT活用教育部門 教授
 総合科学部 教授
 全学共通教育センター 教授

久保田祐歌
 新原 将義
 金西 計英
 井戸 慶治
 齊藤 隆仁

3) 実施体制

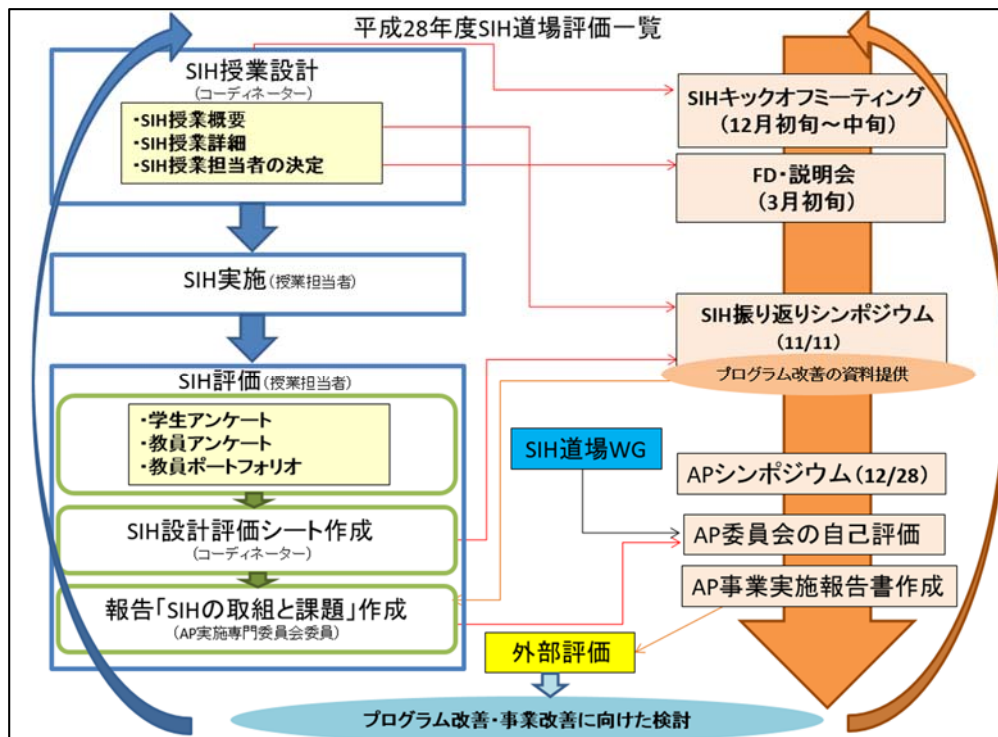
3.1) 実施

大学教育委員会に理事（教育担当）を委員長とする「大学教育再生加速プログラム実施専門委員会」を設置し、SIH道場の実施に関する全体統括、授業設計コーディネーター等の人材の選出・割り当て等を行っている。総合教育センター教育改革推進部門では、授業設計、授業担当者の支援としてFDや個別相談を行っている。コンテンツ作成ワーキンググループでは、SIH道場で学生が使用する教材等の授業担当者を支援するためのコンテンツ、授業のひな形等を作成している。



3.2) 評価

本取組の妥当性及び信頼性を検証するために、医療系、工学系、総合科学系領域の学識経験者各1名、卒業後の主な進路である医療機関、教育・研究機関、企業の関係者各1名、教育学専門家1名の合計7名で構成する外部評価委員会を設置し、本取組の進捗状況と成果について評価を行っている。また、学生の声を教育改革に取り入れるため、学生と教職員が教育の現状・課題について意見交換を行い、具体的な提案等を行う組織として、総合教育センターに「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会」を設置し、その下に「SIH 道場評価・改善ワーキンググループ」を設けている。



4) 年次計画

SIH 道場は、本学の1年次全員が前期に受講する初年次教育プログラムである。その準備として、前年度の10月より授業設計コーディネーターの選出が始まり、プログラムごとに授業設計が開始される。また、授業終了後にはプログラムごとに振り返りを行い、評価や次年度に向けた改善計画を作成し、11月に実施する「SIH 道場振り返りシンポジウム」で、学内全体の総括を行う。主な年次スケジュールは以下の図の通りである。

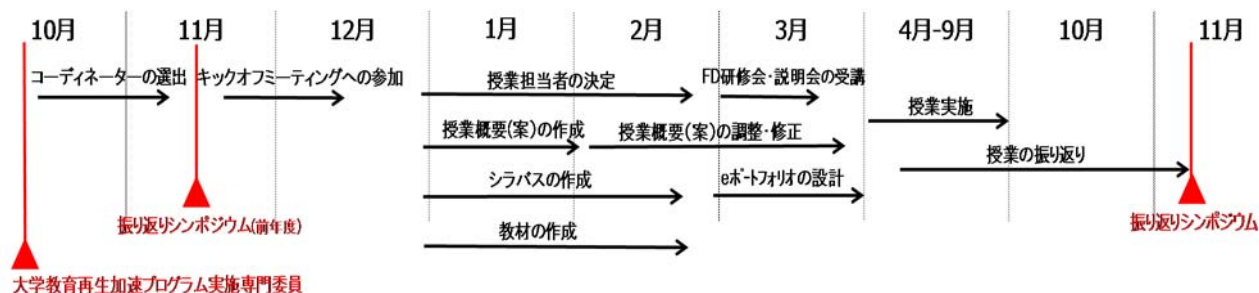


図 SIH 道場 1年間の実施スケジュール

5) 活動内容

| 実施日（期間） | 実施内容 | 対象 |
|---------------------------------------|--|--------------------------|
| 平成27年12月2日， 9日，15日 | 平成28年度SIH道場キックオフミーティング (蔵本キャンパス1回，常三島キャンパス2回) | 平成28年度授業設計コーディネーター |
| 平成28年3月1日， 2日，7日，8日 | 平成28年度SIH道場FD・説明会 (蔵本キャンパス2回，常三島キャンパス2回) | 授業設計コーディネーター・授業担当者 |
| 平成28年4月～平成 29年3月上旬 | SIH道場学生対象アンケートの実施 | SIH道場受講学生 |
| 平成28年4月～3月 月上旬 | SIH道場教員対象アンケートの実施 | SIH道場担当教員 |
| 平成28年6月6日 | 第7回AP実施専門委員会 | AP実施専門委員会委員 |
| 平成28年10月11日 | 第8回AP実施専門委員会 | AP実施専門委員会委員 |
| 平成28年8月～10 月 | SIH道場評価・改善ワーキンググループインタビュー調査 | 評価・改善ワーキンググループ学生委員23名 |
| 平成28年11月11日 | 平成28年度SIH道場振り返りシンポジウム | 大学，短大，高校の教職員及び学生 |
| 平成28年12月8日， 13日，22日，平成 29年1月11日 | 平成29年度SIH道場キックオフミーティング (蔵本キャンパス2回，常三島キャンパス2回) | 平成29年度授業設計コーディネーター |
| 平成28年12月28 日 | APシンポジウム (「アクティブ・ラーニング」「反転授業」) | 大学，短大，高校の教職員及び学生 |
| 平成29年2月24日 | 第9回AP実施専門委員会 | AP実施専門委員会委員 |
| 平成29年3月1日， 2日，6日，7日 | 平成29年度SIH道場FD・説明会 (蔵本キャンパス2回，常三島キャンパス2回) | 平成29年度授業設計コーディネーター・授業担当者 |
| 平成29年3月3日 | 徳島大学AP外部評価委員会 | AP実施専門委員会委員等 |

6) 情報発信

6.1) 大学ウェブページ

学内外への情報発信のために，徳島大学ウェブページに，大学教育再生加速プログラムの取組みを掲載するページを新たに設け，随時取組の情報提供を行っている

(URL : <http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/>)。

掲載内容は，大学教育再生加速プログラム事業の取組概要，SIH道場の概要，年度計画の他，「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」のテキスト(PDF)，関連図書やアクティブ・ラーニングスペース教室の案内を行っている。今後は，さらに内容を充実させていく予定である。



[TOP](#) > [教育・学生生活](#) > [教育活動](#) > [大学教育再生加速プログラム \(AP\)](#)

教育・学生生活

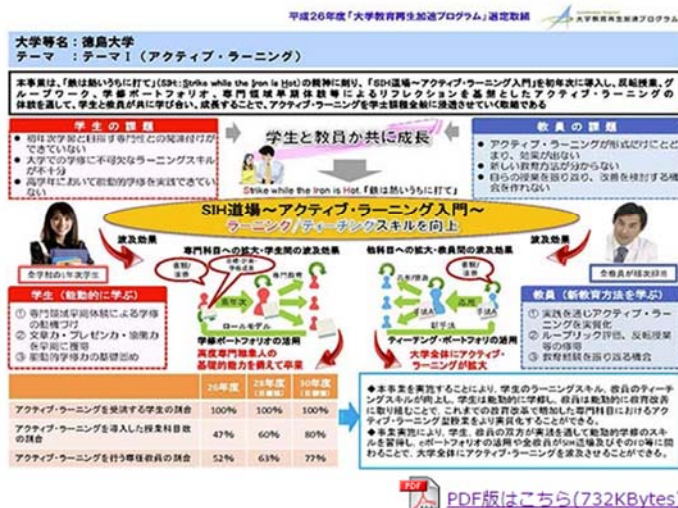
- 学年階
- 諸手続きのご案内
- 授業料免除・奨学金等
- 福利厚生
- 困った時の相談窓口
- 課外活動
- 学生生活Q & A
- 学生生活実態調査
- 教育活動
- > [教育システム（徳島大学の教育改革）](#)
- > [終了したプログラム](#)
- 修学インフォメーション

大学教育再生加速プログラム(AP)

学生と教員が共に成長する「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」

取組概要

本事業においては、「鉄は熱いうちに打て」（SIH：Strike while the Iron is Hot）の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目である「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」を、初年次に導入します。本科目では、学生は将来を見据えて学習意欲を向上させながら、能動的学修の実践に必要な「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」等のラーニングスキルを体得し、教員は現場実践型職能開発によりティーチングスキルを向上させます。さらに、学年進行に伴い、アクティブ・ラーニングの実質化を学士課程全般に浸透させていきます。これらによって、高度専門職業人として必要な汎用的技能を備え、本学の教育理念である進取の気風を体現できる人材の育成を推進します。



6.2) 学会・フォーラム等およびジャーナル

AP 事業「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組について、学会およびフォーラム等において情報提供を行った。学会発表については、口頭発表を 2 件、ポスター発表を 2 件行い、取組に関連する報告がジャーナルに 1 件掲載された。

<学会・フォーラム等>

大学教育学会第 38 回大会：口頭発表

日時：平成 28 年 6 月 11 日（土）10:00～12:00

場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス

発表者：久保田祐歌

題目：「OJT 型 FD によるアクティブ・ラーニングの普及－徳島大学の取組事例」

主催：一般社団法人大学教育学会

SPOD フォーラム 2016 : ポスター発表

日時：平成 28 年 8 月 24 日（水）17:40～19:00

場所：愛媛大学城北キャンパス

発表者：新原将義，久保田祐歌，吉田博

題目：「初年次教育への導入を通じた AL の全学的普及の取組」

主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

初年次教育学会第 9 回大会 : 口頭発表

日時：平成 28 年 9 月 11 日（日）10:00～12:00

場所：四国大学

発表者：吉田博

題目：「学習効果を高める振り返りを促進する授業設計—初年次教育プログラム『SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～』の事例から—」

主催：初年次教育学会

大学教育学会 2016 年度課題研究集会 : ポスター発表

日時：平成 28 年 12 月 3 日（土）12:00～12:50, 14:30～15:20

場所：千葉大学西千葉キャンパス

発表者：久保田祐歌，新原将義，吉田博

題目：「初年次教育を学生はどのように捉えるか—プログラム受講直後のインタビュー結果の検討から—」

主催：一般社団法人大学教育学会

< ジャーナル等 >

執筆者：久保田祐歌，吉田博

タイトル：学修の振り返りを促進する授業設計—アクティブ・ラーニング型初年次教育プログラムの事例から

雑誌名，巻号，頁：京都大学高等教育研究，第 22 号，pp. 115-118

発行日：平成 28 年 12 月 1 日

発行元：京都大学高等教育研究開発推進センター